

# 誰かのために繋がる存在として

消防本部警防課 担当

消防副士長 田畑 早織（平成20年入職）

## 救う側へ

私が生まれ育った神戸で1995年に起こった阪神淡路大震災、当時住んでいたマンションは1階が崩壊し、建物は全壊して斜めに傾きました。すぐに逃げ出そうとしましたが、玄関のチェーン鍵がはずれず、自宅内に閉じ込められた状態となり、真冬に暗闇の中で救助をずっと待ち続け、救助隊の方々に救出されました。

震災の時に助けて下さった消防士達のように、誰かのために繋がる仕事がしたいと思い、部活動のブラスバンド部で学んだチームワークや民間企業での就職経験を活かし、縁があった当時の大東市消防本部で消防士として就職しました。



## やりがい

当時先輩の女性職員はいらっしゃいましたが、救急救命士資格を持たない初めての女性消防士として採用されました。

半年間の消防学校生活を終え、最初は予防課に配属され女性防火クラブの方々と予防広報活動などを担当し、その後消防隊や救急隊の現場活動を経験しました。

現在は警防課という部署で、災害時の被害軽減や現場活動円滑に行うための車両や庁舎の維持管理サポートなどの業務に携わっており、また消防市民音楽隊員としても音楽隊コンサートを通して市民の方々へも予防広報を行っています。

仕事などで何か困った時は、直ぐに相談できる上司がいてくださる環境にも恵まれ、現場勤務と日勤勤務で経験したことを活かしつつ、仕事を通して人と人との繋がりを持つことが、今の私にとって一番の仕事のやりがいです。



## 災害で悲しむ人を無くしたい

消防士という仕事は、消防隊や救急隊をはじめ、119番通報を受ける通信指令室や職員の福利厚生を行う部署等、さまざまな幅広い仕事があります。

誰かのために繋がるこの仕事は、年齢や性別等の違いを比べることよりも、自分がどういう職員になりたいかという気持ちを持ち、ずっと持ち続けることが大切だと思います。災害や火災・救急事案で、もしあの時こうしていれば、知っていれば、自分の大切な人の命を失わずにすんだのにとこの私と同じ思いをする人がいなくなるよう、災害事案を1件でも減らすために日々仕事をしています。

最後になりましたが、いざという時に、何事にもチームワークの団結力が強く、責任を持ち仕事のやりがいを感じるこの職場で、他の仕事では経験できないやりがいを、一緒に実感出来る日を心よりお待ちしております。

